

いて、『草枕』を例に、論証してみることにする。

《中国学》

魯迅「補天」についての一考察

博士後期課程 一年 木村 淳

一九二二年に執筆された「補天」は、「女媧煉石補天」等の神話や伝説を題材とした小説である。初め「不周山」という題で発表され、小説集『呐喊』（一九二三）の巻末に収録された。その後、『呐喊』から外され、題を改めて『故事新編』（一九三六）の巻頭に収録されることとなった。

「補天」の成立には『呐喊』の諸作品及びそれらの創作と時期を同じくして発表された雑感文や翻訳作品との関係が強いと考えられるであろう。とりわけ、作品全体の読みに関わる女媧の人物像のとらえかたを考察するうえでは、その関係の解明が鍵を握っている。しかしながら、「補天」と同時期の文筆活動との関係は、実はあまり明らかにされていない点が多いと思われる

本発表においては、『呐喊』の後半の作品に強い影響を及ぼしたエロシエンコの童話作品と「補天」との比較検討を行い、両者の相違点を明らかにすることを中心に、『呐喊』との関係をも視野にいれつつ、「補天」が一九二二年の時点で生み出された理由について考察を試みることにしたい。